チャレンジ工房 news

第 117 号　2020 年 12 月発行

発行先　パソコン工房チャレンジ

編集責任者　　川上　貴大

今年は大変な一年でした

新型コロナウイルスの存在が確認されたのが去年の 12 月で、それからいよいよ一年が経過しました。あの時点では日本では特に報道などは無く、2020 年がこのような年になるとあの時点で予想できた人はまずいないだろうと思えます。それがいつの間にか日本でも流行り始め、日本の社会は大きく様変わりせざるを得ない状況になりました。

当初は外出時にマスクを付ける人が増えた程度でしたが、人々の意識に働きかけたイベントと言えばやはりクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号における新型コロナウイルス感染者の確認でしょうか。当時は 3 密という言葉も無く、この事件をきっかけに新型コロナウイルスを認知した人は日本に限らず大勢いるかと思われます。クルーズ船という行動範囲の広い船で流行した事が人々の危機感を煽ったといえるでしょう。そして 4 月 16 日には緊急事態宣言が各都道府県に出され、5 月 25 日まで続きました。この時チャレンジでは、工房の開放時間を短くしたり、ゴールデンウィーク中は工房を締め切る事にして、更に一部職員の通勤時間も時差出勤を意識したものに変更しました。消毒液の配備などの細かい点にも気を配り、所員さん達が安心して来れる環境作りは今でも意識しています。そしてお盆休みの頃に訪れた新型コロナウイルスの第二波、11 月初頭から始まってまだ終息していない第三波によって、多くの国民が疲弊しているのが現状です。

流行の初期と現在で明確に違う点が何かを考えると、国民の危機感の消失が最大の要因であると思います。危機感に限らず、強い感情を長期間維持し続けるというのは難しいです。それで少し緊張が緩んでしまった時に何事もなかったから、少しずつ対策や警戒を怠っていった結果が今の感染拡大ではないかと考えられます。現状の原因を政府や周囲の人物など、自分以外のところに求めるのではなく、何が危険なのかを自分で考えて、緊急事態宣言が出ていた時のような慎重さを思い出して生活していくべきでしょう。正月でさえ今までのように初詣なんかにも行けない状況で、『コロナに慣れる』という事をもう一度試みる必要があると思います。

今後の予定

12/26（土）～1/5（火）

年末年始につき工房は休業です。

1/6（水）から活動再開します。

工房の日々

今月に入り、工房を訪れる所員さん等が特に少なくなっています。人によっては新型コロナウイルスと関係ない事情から来れなかった方もいるのですが、それを踏まえても少なく、一人も来ないような日も以前より増えています。感染症を警戒しているのもあるでしょうが、最近の冷え込みも理由にありそうです。新型コロナウイルスの危険性が無かったとしても、工房まで出向くのも寒気のせいで辛い時期です。チャレンジでは換気のために、扉を開けながら暖房をつけるというやり方をとっているのですが、寒いと思われても仕方ないやり方です。通常より高い温度設定にしていますし、風の入ってこない場所もありますが、感染症予防と寒さ対策の両立が難しいのが現状です。

筆者は今年４月から工房で働き始めたのですが、それから間もなく緊急事態宣言が出され、通常通りの勤務は結局最初の一週間程度しか出来ませんでした。それから一か月で緊急事態宣言は解除され、その頃から少しずつ工房に来る人が増え始めました。その頃は工房に限らず社会全体が慎重な行動を取っていましたが、お盆の頃にあった新型コロナウイルスの第二波の時期にはかなり人が増えていたように思えます。今思えばあの頃から中だるみが始まっていたのでしょうが、この調子なら今年中に元の生活に戻れるのでは、と私も当時は考えていたので、他の人を批判する事は出来ません。結局その第二波は完全には沈静化せず、じりじりと続いている間に 11 月からの第三波が始まって今に至る、という状況です。

来年も新型コロナウイルスに悩まされる一年となりそうですが、外出時のマスクや帰宅後の手洗いうがい、工房にも置いてあるような消毒液は見かけたら付けておくくらいの気持ちで使っていった方がいいのでないでしょうか。そして日本が、世界がもう大丈夫だと確信できる時まで単に我慢するというのではなく、パソコン等を通して新しい事に挑戦してみるくらいの心持ちで暮らしていくべきでしょう。

それでは皆様、よいお年を。